

第57回 令和7年7月4日（金）

7月5日に大きな地震が来るという予言が話題となっています。

私が若いころにも「1999年の7月に世界が滅びる。」というノストラダムスの大予言がものすごく話題となり、子どもはみんな信じていました。その結末は現在を見ればわかります。

今回も明らかにそれと同じです。断言できますが私たちの世界では未来を正確に視ることができない人間はいません。もちろん予測は可能です。経済的な変化や社会情勢の変化などある程度正確に予測することは可能です。

しかし災害の予測はできません。もしうけるのなら関東大震災や東日本大震災で命を落とした方を「救うことができたのに救わなかった」ことになります。あれだけの人命が犠牲になった災害に對し、そのままにしておくことができる人はいないはずです。誰にも予測できないから災害は起きるのです。

7月5日に災害が来るかと言えば「わからない」としか答えられませんし、その答えが不安を呼んでいろいろな人が共有しようとするからデマが拡散します。災害に備えることは大切ですが、観光業が深刻な打撃を受けていることは遺憾に思います。5日に地震が来なくて「もう大丈夫」と次の日から旅行に行くのでしょうか。災害の危険度は日々変わらないというのに。

「わからない」から恐れの的ではなく、「わからない」から常に準備しておくことが大切です。人間は安全性バイアスによって「自分だけは大丈夫」と思う癖があります。テレビでほかの国の災害のニュースを見て「もし自分がその場にいたら」と想像する中で、自分が災害によって命を落とすことを考えている人はほとんどいません。多くは「生き残った後どうしよう」と考えます。「自分は生き残ることができる」ことが前提になってしまいます。

7月5日の予言がこのようなことを考えるきっかけになるのなら、良い効果があるといえるのかかもしれません。むやみに恐れず、でも準備は怠らず。

もうすぐ9月1日がやってきます。この日に地震が来ると思っている人はいないですが、この日は関東大震災で多くの人命が失われた日です。この日は地震や火事のことを考えなくてはいけない日です。

校長室の書棚を眺めていたら、新聞社から送られてきた古い写真集がありました。関東大震災における神奈川の被害を写真に収めたものでした。過去の災害を無しにすることはできません。私たちにできるのは過去を教訓にして未来の災害をできるだけ小さくすることだけなのです。